# 学校司書モデルカリキュラム、はじめました ーコロナ禍での取り組み・成果と課題

山口 真也

## 1. モデルカリキュラム開講にいたる過程

筆者が在籍する沖縄国際大学は、沖縄県内の唯一の司書課程をもつ大学として、これまでに数多くの有資格者を送り出してきた。1995年度に、短期大学国文科に課程が設置され、短期大学の廃止後は、文学部国文科へと移行し、2001年度からは総合文化学部日本文化学科がその開講学科となっている。

図書館法や施行規則に基づいて開講される司書課程が主に想定する専門職は、公共図書館ではたらく職員である。他の館種については、法律に定められた専門職(国家資格)が、「司書教諭」を除いて存在しないことから、実質的には司書有資格者が公共図書館以外の館種でもおり、すべての館種での専門的職務を掌ることは難しい面もある。学校図書館もまた同様であり、文科省が実質的にコントロールしている司書課程のカリキュラムでも、学校教育の制度や児童生徒の心身の発達について学ぶ機会は十分には設けられていない。沖縄県では、歴史的にみて、公共図書館よりも先に学校図書館の整備が進んだ面もあることから、各自治体で実施

される司書有資格者を対象とする正規職員採用 試験においても、合格者を優先的に学校図書館 へ配置する傾向があることから「、司書課程で学 ぶ学生たちに学校教育に関する知識をどのよう に身に付けさせることができるのか、については 長い間の本学司書課程の懸念事項であったと 言える。

筆者が本学において司書課程の責任者を務めるようになった 2010 年頃からは、学校図書館で司書として働きたいと考えている学生には、同じ図書館専門職である司書教諭課程を同時に受講するよう勧めていた時期もあった。しかしながら、司書教諭課程を受講するためには、教科や学校種は問わないものの、教員免許が必要となるため、在学中に取得する単位数がかなり多くなってしまうという問題もあった。

こうした中で、2014年6月に学校図書館法が一部改正され、「学校司書」という新たな専門的職種が法律に明記されることになった。残念ながら、司書や司書教諭とは異なり、「国家資格」としては認められなかったものの<sup>2</sup>、2016年11月に「学校司書のモデルカリキュラム」が文部科学省によって発表され<sup>3</sup>、早い大学では2017年

<sup>-</sup> 学校図書館問題研究会が月に I 回発行するニューズレター『学図研ニュース』の 8~9 月号にて、沖縄県内の司書職正規職員採用試験の実施状況と合格者の配属状況を毎年筆者が報告している。

<sup>&</sup>lt;sup>2</sup> 拙著「「学校司書のモデルカリキュラム」に関するノート 地方(沖縄の)私立大学・司書課程担当者の立場か

ら」『ぱっちわーく』2016 年 12 月号, pp.12-14

<sup>3</sup> 文科省「「学校司書のモデルカリキュラム」について
(通知)」https://www.mext.go.jp/a\_menu/shoto
u/dokusho/link/1380587.htm, 2016.11.29 公
開

度からカリキュラムがスタートする中<sup>4</sup>、沖縄国際 大学においても、3 年遅れて、2020 年度からカ リキュラムが一部スタートすることとなった。

## 2. 沖縄国際大学のモデルカリキュラムの仕組み

文科省が発表した「学校司書のモデルカリキュラム」は 10 科目 20 単位で構成されている<sup>5</sup>。表 1 に示されている通り、従来の司書課程の科目や教員免許の取得のために必要となる科目、さらに司書教諭課程の科目を組み合わせているため、教職課程、司書教諭課程をあわせもつ司書課程開講大学であれば、学校司書のモデルカリキュラムは比較的開講にかかるコストは少ないと言われている。読み替えを活用すれば、本カリキュラム 新しく設置する必要がある科目は、

表   学校司書のモデルカリキュラム読み替え表
-------------------------

	科目名	同書	教職 課程	司書 教諭	単位数
	学校図書館概論			*	2
学校図書館	図書館情報技術論	0			2
のに	図書館情報資源概論	0			2
運営・管	情報資源組織論	0			2
管理・サー	情報資源組織演習	0			2
ビス	学校図書館サービス論				2
	学校図書館情報サービス論	*			2
児童生徒に	学校教育概論		*		2
児童生徒に対する教育支援に関する科目	学習指導と学校図書館			0	2
教育支援	読書と豊かな人間性			0	2

<sup>4 2019</sup> 年度の全国の開講状況は、「学校司書のモデルカリキュラム実施の実態について」(川原亜希世・岡田大輔、『図書館界』72(2), 2020.7, pp.75-81)に詳しい。学校図書館問題研究会でも毎年調査を行っている。

表 I で〇や※が付けられていない科目、つまり、 「学校図書館サービス論」の I 科目(2 単位)の みである。

本学においても、当初の計画段階では、「学校図書館概論」は「学校経営と学校図書館」(司書教諭科目)、「学校図書館情報サービス論」は「情報サービス論」と「情報サービス演習(I・I)」(司書科目)、「学校教育概論」は教職科目で読み替えることも検討していたが、次の2点を考慮して、読み替えは一部の科目にとどめることにした。

- 1)「学校教育概論」の読み替え科目となっている教職科目は「教育の思想と原則「教育心理学」「特別支援教育論」「教育課程・教育方法」の4科目あり、教職課程受講生以外がモデルカリキュラムを受講する場合には2単位を取得するために4科目も受講しなければならない。また、本学教職課程では、教職科目の履修階梯が設けられており、4科目以外の前提科目も履修しなければならず、さらに負担が大きくなる。
- 2) 沖縄県は、全国に先駆けて、1970 年代から、各自治体において小中学校も含めて学校司書を積極的に配置してきた経緯があり、「学校図書館先進地域」の I つとして知られている。県立高校では「学校事務」という枠ではあるが、学校図書館での業務を事務職として主に担当する正規職員の採用試験もここ IO 年ほど、毎年行われており、高いレベルでの学校図書館専門職養成が求められている。

「学校図書館概論」については、文科省が定め る読み替え表のとおり、「学校経営と学校図書館」

<sup>&</sup>lt;sup>5</sup>「別紙 学校司書のモデルカリキュラム」https://www.mext.go.jp/a\_menu/shotou/dokusho/link/\_\_icsFiles/afieldfile/2016/12/19/1380587\_01\_1.pdf, 2016.11.29

に代替することとしたが、「学校教育概論」と「学校図書館情報サービス論」については読み替えは行わずに新設科目として、前者は本学の教職課程担当教員が、後者は筆者が担当することとした。

なお、学校司書のモデルカリキュラムは、現在のところ国家資格を与える課程ではない。また、県内の司書職の採用試験においても、正規職員、会計年度任用職員とも、採用条件となる必要な資格として募集要項に明記するケースは確認できない。したがって、多くの学生は、学校司書になることを目指しつつも、各種採用試験で求められる司書資格を同時に受講することとなる。

司書資格科目の一部は、日本文化学科の専門科目(3 科目)、または共通科目(1 科目)として開講されているが、それ以外は受講に 1 単位 1,000 円の負担が必要となる資格科目となっている。沖縄の学生たちの資格取得にかかる費用負担をできるだけ軽減できるようにするため、学校司書のモデルカリキュラムの新設科目については、「学校図書館サービス論」は、司書課程設置学科である日本文化学科の専門科目として、「学校教育概論」は本学の共通科目社会生活科目群の科目として開講し、卒業単位に含まれる科目として位置付け、費用負担なく受講できるようにした。

以上の検討をふまえて策定した本学のカリキュラム表は次のとおりである。

なお、本学司書課程には、開設当初からのねらいとして、司書の専門性の I つである、資料組織化業務を高いレベルで学ぶため、法定科目では2単位ずつの科目となっている「情報資源組織論」を2 科目展開にし、分類学を「情報資源組織論 I」「情報資源組織演習 I」、目録学を「情報資源組織論 I」「情報資源組織演習 I」として展開している点にその特徴がある。したがって、学校司書のモデルカリキュラムにおいても、文科省によって定め

られた科目数よりも 2 科目多くなるため、12 科目 24 単位で設計していることを付記しておきたい。

表 2 沖縄国際大学学校司書モデルカリキュラム

区分		授 業 科 目	単位数	受講年次
学管		学校経営と学校図書館	2	3 · 4
授・		図書館情報技術論	2	2 • 3 • 4
図」		※図書館情報資源概論	2	1 • 2 • 3 • 4
≞ Ľ		情報資源組織論I	2	2 · 3 · 4
_ ス		情報資源組織論Ⅱ	2	2 · 3 · 4
館に関		情報資源組織演習Ⅰ	2	2 · 3 · 4
のす		情報資源組織演習Ⅱ	2	2 • 3 • 4
運る科	凼	* 1 (ZOI BA) C/III		2 • 3 • 4
営目	修	※学校図書館情報サービス論	2	3 · 4
児童生徒に対って援に関す		※※学校教育概論	2	1 • 2 • 3 • 4
する		学習指導と学校図書館	2	3 • 4
教目		読書と豊かな人間性	2	3 · 4

## 3. 学校司書モデルカリキュラムの本格スタート

上述のように、沖縄国際大学の「学校司書のモデルカリキュラム」は 2020 年度から一部スタートしている。カリキュラムは在学生にもさかのぼって適用し、在籍期間が | 年しかない 4 年生は除いて、2020 年度時点の 3 年生までを対象として開講することとなった。

ただし、2020 年度はカリキュラムの責任者である筆者が、東京での学外研修中であったため、新設した 3 科目は開講せず、受講希望者には「読書と豊かな人間性」や「学習指導と学校図書館」など、従来から開講していた司書教諭科目を中心に受講を進めてもらうことにした。そして、2021 年度には4月に資格取得希望者向けに、オンデマンド形式でオリエンテーションを行い、前期に「学校図書館情報サービス論」と「学校教育概論」、後期に「学校図書館情報サービス

論」を開講する運びとなった。

ここでは、2021 年度に筆者が担当した「学校図書館サービス論」と「学校図書館情報サービス論」の授業の様子をレポートしたい。

## 3.1.「学校図書館サービス論」での取り組み

「学校図書館サービス論」は前期水曜日 6 時間目(18 時~19 時 30 分)に開講した。6 時間目という遅い時間の開講となったのは、新型コロナ感染症拡大防止策として、学生たちには座席間隔を置いて座ってもらう必要があり、従来の時間割では教室の不足が生じてしまうため、資格科目は極力、夜間の時間帯に開講するという大学からの方針が示されたためである。また、4 年生は在学中に 1 度しか本科目を受講する機会がないため、必修科目等との重なりが生じないように、6 時間目の開講となった経緯もある。

本科目は2年生以上が受講できる設定としたが、各学年まんべんなく、48名が登録した。司書課程の受講生が(1年生を除いて)3学年合計で 110名程度であるから、半分程度の学生が学校司書という職業に関心を持っていることが分かる。小学校の頃から、学校司書の存在に身近に接してきたことから、「学校司書」という職業の選択肢が自然と頭に浮かぶ学生が多いということだろう。

各科目の内容については、文科省の資料である程度概要が示されており、2019 年には学校図書館協議会も「学校司書のモデルカリキュラム」講義指針」6という文書を公表している。筆者の授業では、これらの指針を参考にしつつ、筆者自身も編集者として出版にかかわった、樹村房による『学校司書のための学校図書館サービス

論』(2021年2月発行)をテキストとして指定し<sup>7</sup>、このテキストの章立てを主に毎回の授業のテーマとして、全 15回の授業を行うこととした。

授業は | 回目~4回目までは、教室で対面形式で行うことができた。ただし、GW が明けた頃から、沖縄県でも新型コロナウイルス感染症の拡大傾向がみられ、5月23日からは政府による「緊急事態宣言」が発出されることになる。こうした中で、5月上旬には、大学よりオンライン授業への転換が推奨され、6月上旬~下旬にかけては学生の大学構内への立ち入りも禁止されることになってしまう。この授業もまた第5回以降はオンライン授業(オンデマンド型配信)へ全面的に切り替えることとなってしまった。



【図 | 授業で使用したテキスト】

当初は、グループワークを積極的に取り入れて、理想的な学校図書館のレイアウト(見取り図・空間設計)を考えたり、学校図書館の存在を学内でアピールするためのブランディングの手法などを検討してもらおうと思っていたが、筆者自身もまだオンライン授業や授業システムの操作に慣れていなかったこともあり、オンラインでのグループワークは断念し、基本的には講義形式の

担当するほか、第4章を篠原由美子氏、田村修氏とともに担当している。その他の著者は、鈴木啓子氏、飯田寿美氏、松井正英氏、内川育子氏、宮崎健太郎氏、松戸宏予氏、木下通子氏、序文は塩見昇氏が執筆している。

<sup>&</sup>lt;sup>6</sup>「学校司書のモデルカリキュラム」講義指針」https://www.j-sla.or.jp/pdfs/20190101gakkousisyokougisisin.pdf, 2019.1.1 公開

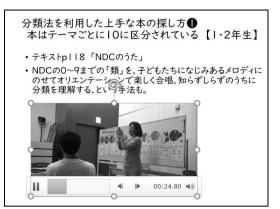
<sup>&</sup>lt;sup>7</sup> 学校図書館問題研究会編、筆者は第3章「資料提供サービス」、第12章「学校図書館サービスと著作権」を

授業とし、個人課題へと切り替えることとした。

とはいえ、オンライン授業に切り替えたことによるメリットもなかったわけではない。オンライン授業では、学生に様々なコンテンツを教材として提供できる。もちろん、対面授業であっても、プレゼンテーションソフトを使って写真や図、動画などをスクリーンに映し出しているが、その映像は鮮明ではなく、色がうまく再現されなかったり、座っている場所によっては細部が見えにくかったりすることもある。しかも、コロナ対策で座席が固定されているため、スクリーンが見えづらい場合に席を自由に移動することも叶わない。オンライン授業では、画面上で、近い距離で写真や動画を見ることができ、音声も配信できる。

例えば、「利用指導・ガイダンス」を取り上げた 回では、テキストに楽譜が出てくる「NDC のうた」 (きらきら星のメロディで NDC を覚えられる替え 歌)を紹介する際に、筆者が歌って聞かせるのは さすがに恥ずかしかったため、YouTube にアッ プロードされた動画を見てもらう形式をとること ができた8。また、「利用環境の整備(施設・設備 の整備)」について学ぶ回では、東京での研修 期間中に訪問した神奈川立鶴見高校で動画で 撮影した館内の様子をそのまま流してみた。館 内の様子であれば写真でも紹介できるが、この 学校では CD を BGM として流したり、書架の配 置をまっすぐではなく、ジグザグに、死角をあえて 作るようにあえて雑然と配置している雰囲気など は動画でなければなかなか伝わらなかったよう に感じている。授業後の課題では、動画の中で 気になった点(自分自身の学校図書館体験と異 なる点)を書いてもらうようにしたが、「浜辺美波 さんの写真集があった」「ライトノベルやコミック がたくさんあった」「隠れ家みたいな場所がたく さんあった」など、気になる場面を学生たちが動 画をストップして何度も確認した様子がみられた

のも、オンデマンド配信ならではの良さだっただろう。



【図2 NDC のうた】



【図3 神奈川県立鶴見高校の図書館】

「資料提供サービス・情報サービス」について 学ぶ回では、2005年に、若い世代の司書が小 学校図書館に配属された初めての年に、平和教 育にどう取り組むか悩みながらも成長していく様 子を伝えたニュース番組をたまたま録画してい たため、それを動画として流しつつ、沖縄の学校 図書館で取り組まれてきた「6.23」を若い世代 の学校司書がどう引き継ぐか、ということを考え てもらった。 大切な取り組みであるが、「昔は 6.23の行事には学校全体で取り組もうという熱 気があったが、先生たちも忙しくなっているせい か、生徒会が撤退し、教科が撤退して、いつの間 にか学校図書館だけになってしまった」という課 題があることも以前、知人の学校司書から聞い

波】より」https://www.youtube.com/watch?v=FPxArafjRAs, 2017.3.16公開

<sup>&</sup>lt;sup>8</sup>「【中山美由紀氏】きらきら星で NDC を歌おう【ライブ ラリー・オブ・ザ・イヤー2016 受賞記念サミット in 紫

ていた<sup>9</sup>。このニュース番組では、新任司書が、退 職したばかりの前任者に、「6.23」をどう取り組 めばよいか、相談するシーンがある。前任者は問 いかけに対して、「あなたはどうしたいの?」と質 問に質問で答える。前任者と同じことをそのまま 取り組めば形は整うかもしれないが、学校司書 自身がこの課題に主体的に取り組まなければ、 子どもたちにも主体的な意欲は生まれないとい うことだろう。そうした前任者からのメッセージを 受け取った新任司書は、悩んだ末に、自分自身 が幼い頃に読んでもらった、沖縄戦の絵本『マ ブニのアンマー おきなわの母』(ほるぷ出版)の 読み聞かせを中心としたプログラムを自ら考案 し、実践する。このニュース番組は、15年以上も の時間を超えていまの学生たちにも大きな共感 を呼んだようで、その日の感想はいつもに増して いろいろな意見が寄せられた。そして、授業が終 わった後、筆者のゼミの 3 年生から、学校図書 館における平和学習の継承をテーマとして卒業 研究に取り組みたいというも申し出があったこと もうれしい成果であった。



【図4 NHK 沖縄放送局 「ニュース 845 沖縄」(2005 年 6 月放送)】

とはいえ、授業のすべての回をオンラインで、というわけにもいかない。「児童生徒の読書支援」の回では、学校図書館でも多く取り入れられている読書活動の I つといて、「ビブリオバトル」の体験だけはどうしても行いたかったので、感染状

況がやや落ち着いた 7 月中に対面授業として、 ビブリオバトルの体験を行うことにした。感染対 策として、4人以内のグループをつくり、学内でも 最大規模の教室を使ってグループ間の距離を 取り、発表者の前にはパーテーションを置き、本 の紹介が終わるたびに除菌シートでパーテーシ ョンを拭き取るようにした。あいにく本島を台風 6 号が本島を直撃した直後の授業となり、警報が 解除された後も暴風がおさまらない悪天候であ ったため、予定していた参加者全員が出席はで きなかったものの、30 人ほどが集まり、なんとか 体験授業を行うことができた。対面での授業の 参加に抵抗がある学生については、その日はリ アルタイムで配信する教室の様子を見学するだ けでもよいとしたのだが、事前に希望をとったと ころ、8割の学生が「参加したい」と回答しており、 教室でビブリオバトルを楽しむ様子からは、リモ ート授業が長く続くなか、学生自身も対面での 授業を通してコミュニケーションを求めているこ とを実感することもあった。

毎回の授業では、オンデマンド授業に問題意識をもってきちんと参加したかどうか、を確認するための方法として、リフレクションシートをMicrosoft Forms を使って提出してもらっていた。意見や感想などはすべてデータで送付する形をとるため、授業でこんな意見があったと紹介する際もデータの転用が容易であり、とりまとめの時間の短縮にもつながった。Formsには、毎回、様々な意見が寄せられるため、興味深い意見については、授業後に『アイディア集』として冊子形式にまとめ、PDFファイルとして受講生全員に共有することとした。

この冊子の中で特に多く掲載したものが、ビブリオバトルを終えた後に書いてもらった感想である。ビブリオバトルに対しては、学校司書の中からも、「投票の際に I 票も入らない子どもが出

<sup>&</sup>lt;sup>9</sup> 拙著「誰だゲンにいちゃもんつけるのは その時、沖縄 の学校図書館では…」『みんなの図書館』439, 2013.

II, pp.48-52

てくる、かわいそう、投票は行わず、本を紹介し合うだけでよいのでは?」という批判が寄せられることもある。学生たちは実際の体験を通してどのように感じたのか。感想を一部紹介して、前期の授業の成果のまとめとしたい。

# 3.2. 「学校図書館情報サービス論」での取り組み

後期開講科目である「学校図書館情報サービス論」は、「学校図書館サービス論」に続く後継科目として位置付けている。本来、この科目は「情報サービス論」と「情報サービス演習」でも

読み替えが可能となっており、モデルカリキュラム開講大学でも開講しないケースも多いように思われる。本学では、先に挙げたような事情から、本科目を開講することとなったが、もともと先行事例やテキストがほぼない科目であり、その分、かなり自由度の高い科目であると筆者は認識している。また、受講生に確認したところ全員が司書課程を受講し、読み替え科目を受講している(または受講する予定の)学生であったことから、「情報サービス」を広く捉えて、前半の講義では、探究学習を支援するための情報サービスの方法を中心に学習し、後半は、モデルカリキュラムに実習的な要素を取り入れるために、情報サービスを意識した「展示」実習を行うこととした。

展示は読書教育の一環として捉えられることも多いが、その時々の時事的な問題や国際的な課題に関わるテーマを設定することで、利用者がまだ知らないけれども、市民として生きる上で知っておきたい、そうした潜在的な知的欲求を触発し、様々な情報するような働きもある。それらも広い意味では、図書館側から資料・情報を届けるというサービスであり、広義の「情報サービス」の意味に含まれると考えてよいだろう。なお、本科目は3年生以上の科目として設定しており、合計21名が登録した。

授業では後半の授業を使って、グループを大きく3つに分けて、大学内の図書館を使ったテーマ展示の実習を行うことにした。本来であれば、近隣の学校図書館に協力を依頼し、実際の学校図書館の蔵書を用いて、実際の児童生徒や教職員を対象とした展示実習を行いたかったのだが、授業内容をデザインする時期(7~8 月)はまだ学外での活動が自由に行える見通しが立たなかったことから、沖縄国際大学図書館の協力を得て、学内での開催を企図することとした。

授業では、図書館でのテーマ展示には大きく 分けて、①時事的な問題を知る(利用者の興味 を喚起する・触発する発信型展示)、②身近な課 題を解決する(利用者が抱えやすい悩み事などを解決できる資料を紹介する展示)、③こんな資料もある(普段はあまり利用されない少し不思議な資料を紹介し図書館を身近に感じてもらう展示)、という 3 種類あることを伝え、グループごとに 1 つを選んでもらい、テーマを検討してもらった。この授業は、学校図書館による情報サービスについて学ぶ授業であるため、児童生徒の探究学習の追体験にもなるよう、テーマ検討の上では、「イメージマップ」や「マンダラート」といったシンキングツールを活用してもらった。



【図5 教室でのグループワークの様子】

OR OTHER DESIGNATION OF THE PERSON OF THE PE	NOT UNIVERSAL TO SERVICE	-	-	-				1172
		C.0	tek	(F) 4 9 1 9	HEROSES	E-150)		
	. 其此 电环·俊	DAD	A-2744	96+1+	65."	R. Corat	( ) 1 (60)	
		644	199911687	30% V)-114	6.	Nather.	才-华	
U. Lake	161.4	5	ARTER GET	941-12-12	48144Th.	skill.	BF	\$1 K
green give	\$N		海南か 八年かり	二山社寶科 日英本	物型資料 大規則申奉	F11.7	19年第一年中	įķir
	4	48 Ay	夕 湾(1月25年 (0文中ラ ママネ	大きまっていた	様子は7年 <新育>	je <sup>K§</sup>	10.14	Ryt.
	6.46	বিশ্বদ	the grain		d'se	M. T. Are	和称	
	***	12 h2 ga \$45	蓝生产 5.10年	Xtt Bra	9	1,40	機士	
	30	(E) (1/2/4)	1/4	इत् क	*	196		



【図6 シンキングツールを使っての学習】

これらのツールは受講自身も学校時代に活用したことがあるらしく、筆者よりも上手に使って話し合っていた様子が印象的であった。また、実習の準備を進めていた II~I2 月にかけては、県内でのワクチンの接種も進み、感染状況が落ち着いていた時期であったため、対面での話し合いも数回にわたって導入することができた。

グループワークを通して、学生たちが考案した 展示テーマ(タイトルと展示の目的)は次のような ものである。

## ①時事的な問題を知る

「リーベル図書館:ジェンダーってなんだー?」 2015 年 9 月の国連サミットで採択された「Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)」、通称「SDGs」では、目標の1つとして「ジェンダー平等を実現しよう」というミッションが掲げられており、ジェンダーに関わる問題への関心が世界的に高まってきている。

また、国連では3月8日を「国際女性の日」として 定めており、世界各国で様々なイベントが行われて いる。沖縄県内でも様々なイベントが行われており、 例えば、恩納村では、「国際女性デー音楽祭 2021」が開催されている。展示企画を実施する時 期はちょうど1月末から2月であり、3月8日に向け て大学生の関心を高めていくよい機会になると思 われる。しかし、国連や恩納村の取り組みにもみら れるように、ジェンダー平等の問題は「女性」という 視点から語られることが多く、女性だけの問題と捉 える人たちも多いのではないだろうか。SDGsのジ エンダー平等は女性だけに限定したミッションでは ない。これらのことから、私達のグループでは、女性 だけではなく男性、さらに性別にとらわれない人た ちが直面するジェンダーをめぐる問題について考え るための様々な資料を集め展示するとともに、参加 型の企画として、YES・NO で答えられる簡単な質 問に答えてもらうポスターを掲示するなどして、これ から社会に出て行く大学生に向けて「ジェンダー平

等とは何なのか」を知ってもらう企画を提案したい。 なお、コーナーの名称である「リーベル」とは、言 語多様性を意図してつくられた「エスペラント語」 で「自由」を意味する言葉であり、本コーナーに適 した名称であると考えた。

## ②身近な課題を解決する

「かせぐ・ためる・つかう : 大学生の大学生に よる大学生のためのおカネのはなし」

生きる上で欠かせない要素であるお金は、大学生にとっても最大の悩みであろう。そんなお金について大学生は特に何を悩んでいるのだろうか。今回の企画展示では、大学生のお金事情を考えるための前提として、まず大学生の生活にどれくらいのお金がかかっているのか、データをポスターで提示する。その上で、大きく「かせぐ」「ためる」「つかう」の3つのカテゴリーに分けてお金をめぐる悩みや課題を解決する手助けになる資料を展示したい。

コーナーにはポスターも掲示し、統計情報を視覚的に分かりやすくまとめて紹介する。例えば、業界の年収ランキングや大学の I コマの授業にかかるコスト、いまお金で困っていることを書いて張り出したり、利用者にも困っていることを書いてもらう参加型の要素を取り入れたりするなど、あらゆる視点で身近に問題を感じてもらえるようなコーナーとする。

#### ③こんな資料もある

「『おかし』な本たち : こんな本も図書館で見つけました!~」

私たちのグループでは、「『おかし』な本たち」を 大きなテーマとして、今回の企画展示案を作成しま した。「おかしい」とは、国語辞典によると「普通と 違うところがあって笑いたくなる様」や「珍妙な言 動・状況などが面白い」、「普通と違った趣深い様」 といった意味があります。このことから、「おかしい」 に関連した様々なジャンルの本や資料を集めて展 示することにより、大学図書館には、授業で使うよう な専門的な資料以外にも、意外な本や資料がある ことを知ってもらいたいと考えます。そして、そうした 本や資料に触れてもらい、授業やアルバイトの合間 に、息抜き・リラックスしてもらえるようにしたいです。

この 2 年間、コロナ禍ということもあって、大学図書館を利用することが難しい期間が長く続いていました。そのため、1,2年生はまだまだ大学図書館を遠い存在と感じているかもしれません。本企画展示を通して、1,2年生に大学図書館の存在を身近に感じてもらうことも目的の一つです。

授業では、展示コーナーに飾る、本の紹介文を記した「POP」づくりや展示テーマに関連するパスファインダーの作成も個人課題として取り入れた。POP は色とりどりの趣向を凝らしたデザインのものが多く完成し(図 7)、パスファインダーには、学校図書館で多く使われている「Library Navi<sup>10</sup>」形式のものもみられた(図 8)。













【図7 学生たちが作成した POP】

eesaa.net/, 2022.2.アクセス

<sup>&</sup>lt;sup>10</sup> 「LibraryNAVI アーカイブ」http://librarynavi.s



【図8 学生たちが作成したパスファインダー】

展示テーマに関わる本を選ぶ際には、前期の「学校図書館サービス論」の中でも重点的に学んだ「図書館の自由」の視点を取り入れ、多様な意見へのアクセスをどのように保障するべきか、ということも検討するように学生たちには指示した。例えば、「ジェンダー平等」をテーマとしたグループについては、ジェンダーフリー教育の推進を否定するような立場から書かれた資料も存在しない訳ではない。そうした資料を展示テーマの中でどのように位置づけるのか、ということも考え上で選書リストを作成するように指示した。学生たちは悩みながらも、ジェンダー平等について多様な意見があることを知る材料となると考え、少数ではあるがそれらの資料をリストに取り入れたようであった。

さて、このように少しずつ準備を進めてきた展示実習であったが、2022 年が明けた頃から、全国に先駆けて、沖縄県に新型コロナウイルスの「オミクロン株」が急速に広がり、1 月 9 日に

は「蔓延防止等重点措置」が適用されるなど、 感染状況がかなり悪化することとなってしまった。 大学の図書館は開館を継続してくれていたが、 授業の多くはオンラインに切り替わり、グループ ワークへの不安の声も学内で聞こえてくるように なってきたことから、I 月からの授業はオンライン に切り替えざるを得なくなった。

コロナ禍はまだまだ続く可能性もあるし、これから先、新型コロナウイルス以外の別の感染症が猛威を振るう恐れもある。もしそうなった場合でも、学校図書館がその機能をストップさせないためには、代替的なサービスを臨機応変に考えて実践していく力も求められる。そこで、この授業では「リアル展示」が開催できなくなったことを一つの学びの機会と積極的にとらえて、リアル展示に代わる方法として、テーマ展示をオンライン上で行うことができないか検討することにした。

学生ともディスカッションを行いつつ、最終的に 採用した方法は、PDF ファイルとリンク機能を使 って、展示空間を再現し、所蔵資料の書影の近く に、バーチャルな POP を設置して、クリックすると 準備していた POP が画像で表示されるようにす る、という仕組みである。そして、展示サイトの下 部にはパスファインダーへのリンクも設け、発信 型情報サービスもオンライン上で再現できるよう にした。また、大学の図書館が開館しているとは いっても、オンライン展示で興味を持った資料を 実際に図書館に行って手に取らなければならな いとなると、オンラインである意味が失われてし まうため、沖縄国際大学図書館や、県民であれ ば誰もが利用できる沖縄県立図書館の電子書 籍サービスから閲覧できるものも積極的に取り 入れ、オンライン上で資料そのものを閲覧できる 要素も取り入れるようにした。

各グループが作成したオンライン展示サイトは 次のようなデザインとなった。









【図9 学生たちが作成した展示サイト】

筆者は PC 上での閲覧を想定して、横長のファイルを作って、それを見本として紹介したが、学生たちはどのグループもスマホでの閲覧を想定してか縦長のデザインを採用している。他にも、電子書籍で利用できない資料については、「試し読みサイト」へのリンクをはるといった取り組み

がみられた。また、「小説家になろう」や「カクヨム」、「青空文庫」など、オンライン上で読むことができる小説サイトの作品を紹介している点にも、デジタルネイティブな彼らならでは日々の読書環境を生かした試みをみることができる。

展示サイトは 2 月 10 日より沖縄国際大学サイト内で公開し、司書課程の学生にもメール等で PR を行った」。成績報告の締め切りの関係で、授業期間中はリアル展示の実施が叶わなかったが、第 6 波が落ち着いたころには学生とともに、図書館での展示を行いたいと考えている。3 月からスタートして 4 月にかけて実施すれば、新入生に大学図書館をより身近に感じてもらったり、司書を目指して入学した学生のロールモデルを提示することもできるだろう。

# 4. この | 年間を振り返って

この授業に限らず、コロナ禍での学生たちの生活は、予定していたことがなかなかうまく進まず、変更と調整の連続であったようにも思う。そして、その変更は多くの場合、規模縮小であったり、中止であったりして、学生たちの学びの機会も大きく阻害されてしまったように感じている。学校司書のモデルカリキュラムの取り組みもまたコロナ禍にたびたび翻弄され、予定していた学習内容を学生たちへ十分に提供することができなかったものの、変化する環境に柔軟に対応しながら、創造的な代替手段を考える機会をつくれたことは、コロナ以前の日常にはなかった新しい学びの機会であったようにも感じている。

今年度、学校司書のモデルカリキュラムを履修 し終える学生(4年生)は8名である。学校図書館 現場での活躍に大いに期待している。

やまぐち しんや:沖縄国際大学

amaguchi/home2022.html, 2022.2.10 公開

<sup>11 「</sup>沖縄国際大学学校司書モデルカリキュラム受講生 特別企画・テーマ展示」https://www2.okiu.ac.jp/y